# 自分の外側を知る ―― AIで深化する特許実務の現場

## 実行から「設計」へ。次世代特許実務のアーキテクチャ

室伏 千恵子 氏（きのか特許事務所 代表弁理士）/
パテント・インテグレーション株式会社



Gemini Notebook

# AIの本質は「時間の使いどころ」のパラダイムシフト

## Traditional Approach (従来の手法)




## AI-Driven Paradigm (AI活用によるパラダイム)




AIの真の価値は、作業速度の向上だけではありません。人間のリソースを「実行」から、上流の「設計（Design)」と下流の「評価・規約化」へシフトさせることにあります。

Gemini Notebook

# 実践者としての背景：きのか特許事務所



- 室伏 千恵子（代表弁理士）
- 元・研究開発職（自ら発明を行う立場を経験）
- 2022年 きのか特許事務所を開業

**Badge 1: [Startups/SMEs]**

**Badge 2: [Patent/Trademark/Design]**

**Badge 3: [End-to-End Workflow]**

**Operational Reality Box**

少数精鋭の事務所として、調査、明細書作成、中間処理までを自らの手で一貫して動かす。このリーンな環境だからこそ、AIを活用した「再現性の高い業務設計」が必須となる。

Gemini Notebook

# 調査プロセス・アーキテクチャ：無効調査の再構築




AIに任せる工程と、人間が立ち止まって確認・判断する「人間ゲート」を明確に分離し、システムとして定義する。

Gemini Notebook

# 「業務設計書」の解剖図

## 【目的定義】

要件を満たす文献の探索に加え、「補強証拠」も確保する等のゴール設定。

## 【母集団の条件】

予備検索で得た「必ず含めるべき公報」や、ノイズを弾く条件の明文化。




## 【人間ゲートの配置】

人間がどの段階で立ち止まり、出力を読み、軌道修正するかを事前定義。

## 【到達ライン (Target Lines)】

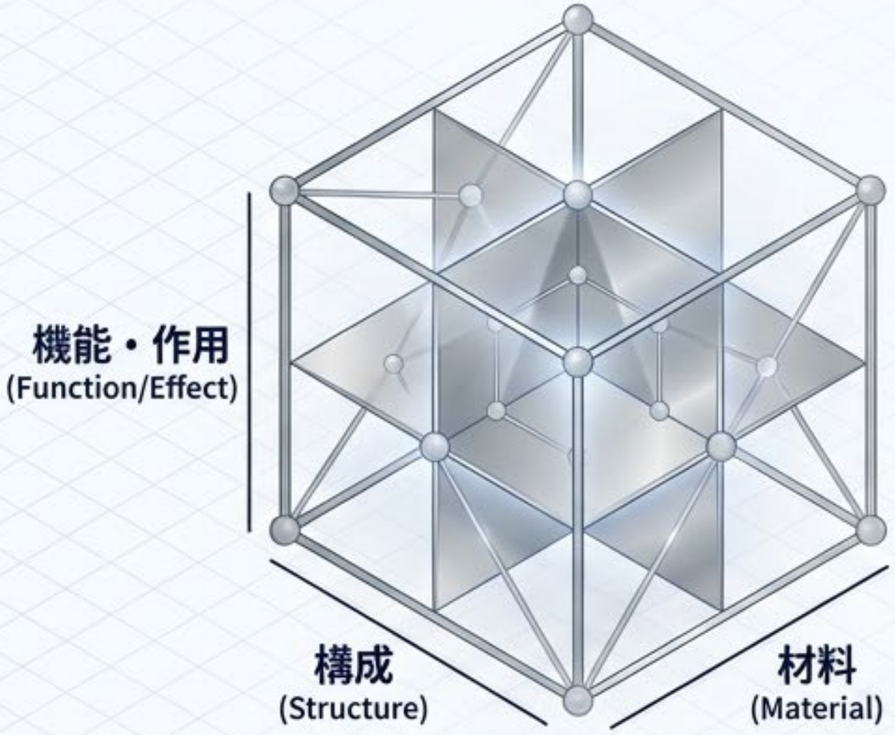
- ☑ ・【最優先】全構成要件と実験例を含む文献
- ☑ ・【次点】一部の要件を満たすが機能が同一の文献
- ⬇ ・【最低限】ここまでは到達してほしい境界線

Gemini Notebook

# 認知の拡張：「点」ではなく「面」で拾うスクリーニング



人間の認知幅には限界があり、長時間のスクリーニングでは
特定のキーワード（点）に依存しがちです。




構造化されたAIスクリーニング（JSON形式での条件指定など）
を用いることで、「材料」×「構成」×「機能」という立体的な
「面」の条件で関連性を一括判定することが可能になります。

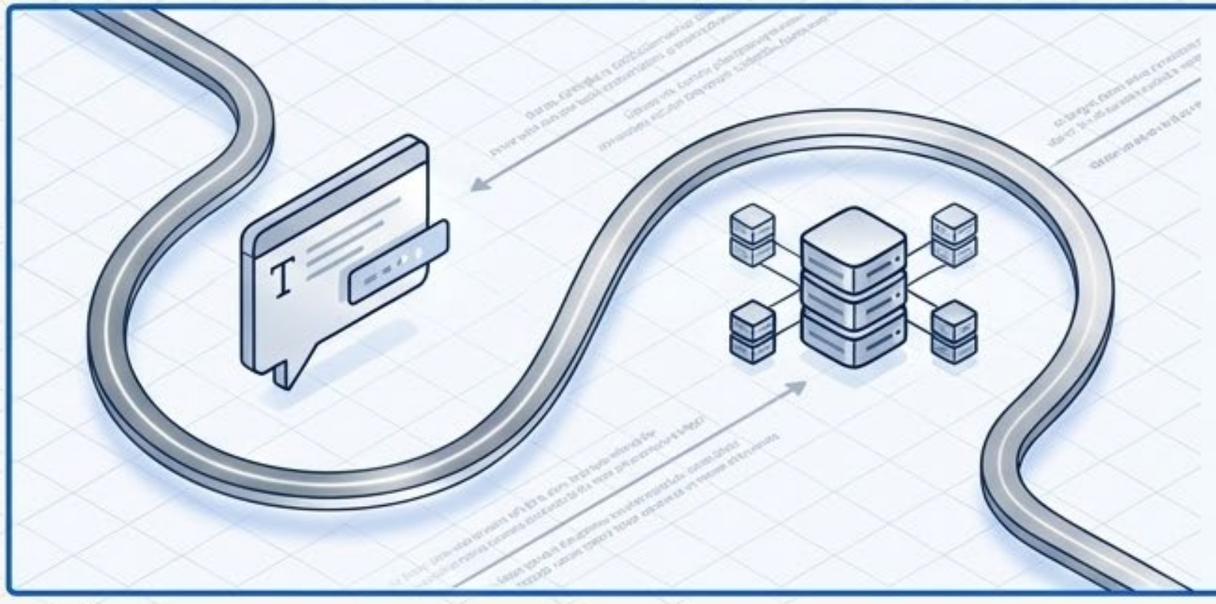
Gemini Notebook

# テクノロジーの触媒：Summaria MCPによる摩擦の排除



**【以前の課題】**

検索式の貼り直し、画面遷移、結果待ち。
プロセス間の「摩擦」が大きく、
設計の修正をためらう原因に。



**【MCPの衝撃】**

手元のAI環境から自然にSamariaへ接続。
対話の中で試し検索や式作成が完結し、
息を吐くように設計と検証のサイクル
（予備調査～再実行）を回せる。

Gemini Notebook

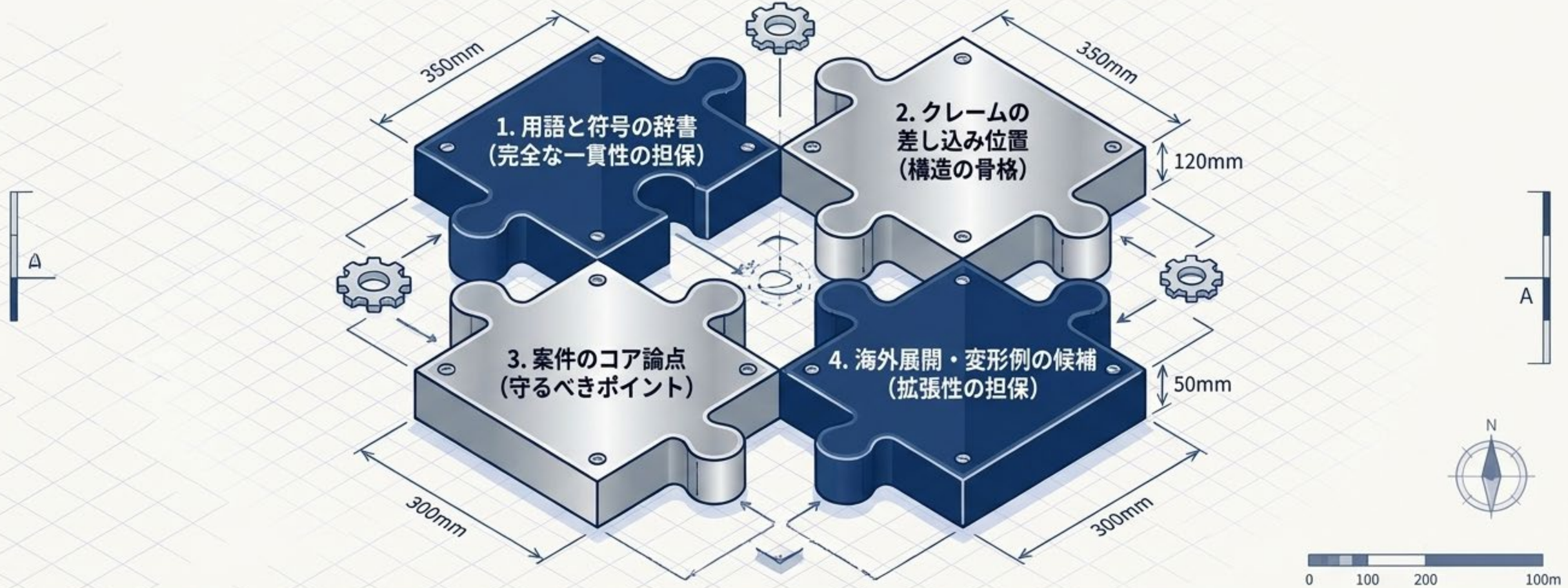
# 作成プロセス・アーキテクチャ：明細書の設計図




Gemini Notebook

# 「書きながら決める」からの脱却：事前定義の必須要件

AIへ指示を出す前に、以下の要素を「カチッと」決め切ることで、後工程での整合性修正コストを劇的に削減します。




【鉄則】書き始める前に設計書を作り切る。AI活用において「走りながら考える」は許容されない

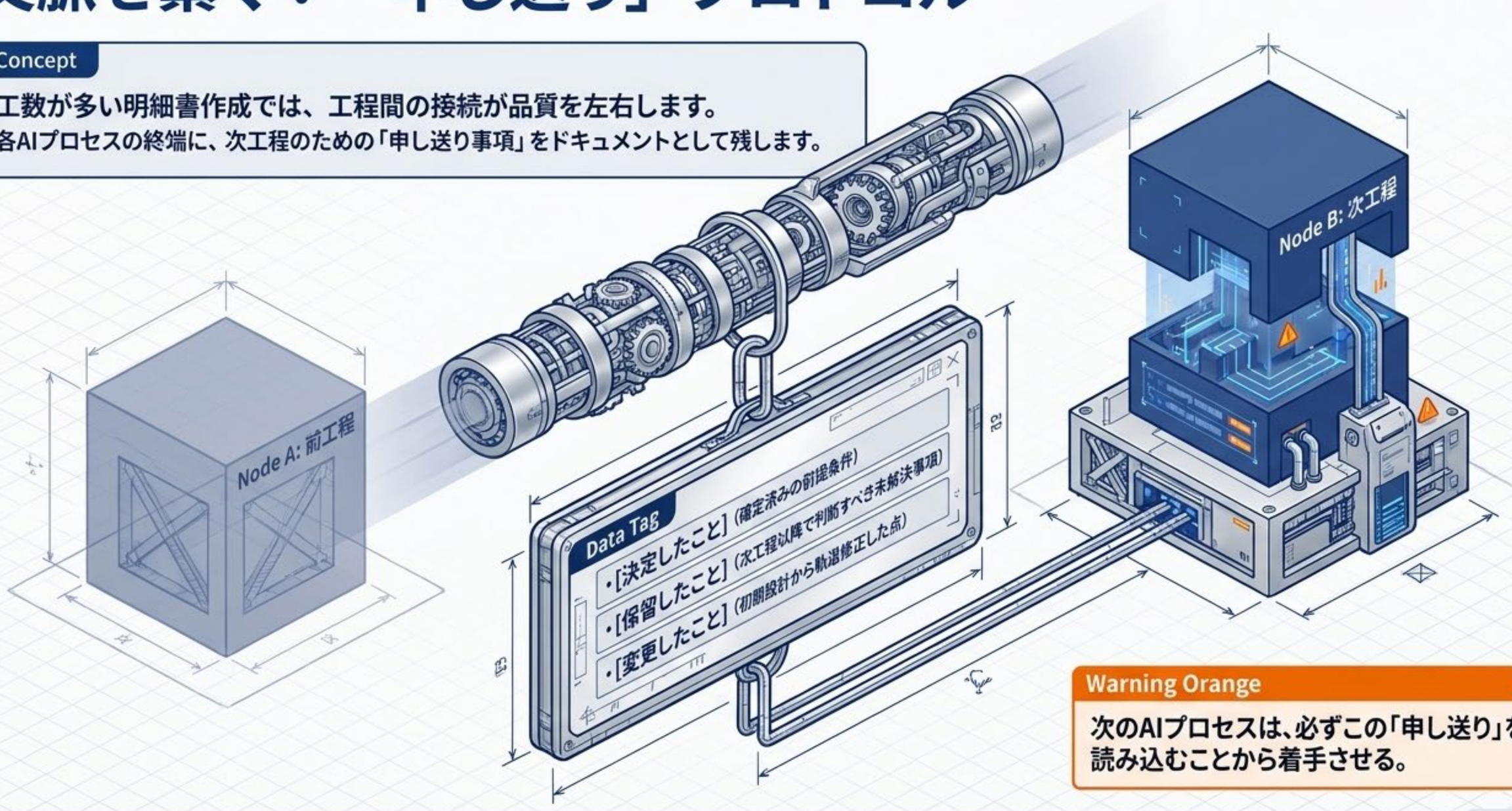
Gemini Notebook

Modern Bright Blueprint

# 文脈を繋ぐ：「申し送り」プロトコル

**Concept**

**工数が多い明細書作成では、工程間の接続が品質を左右します。**
各AIプロセスの終端に、次工程のための「申し送り事項」をドキュメントとして残します。



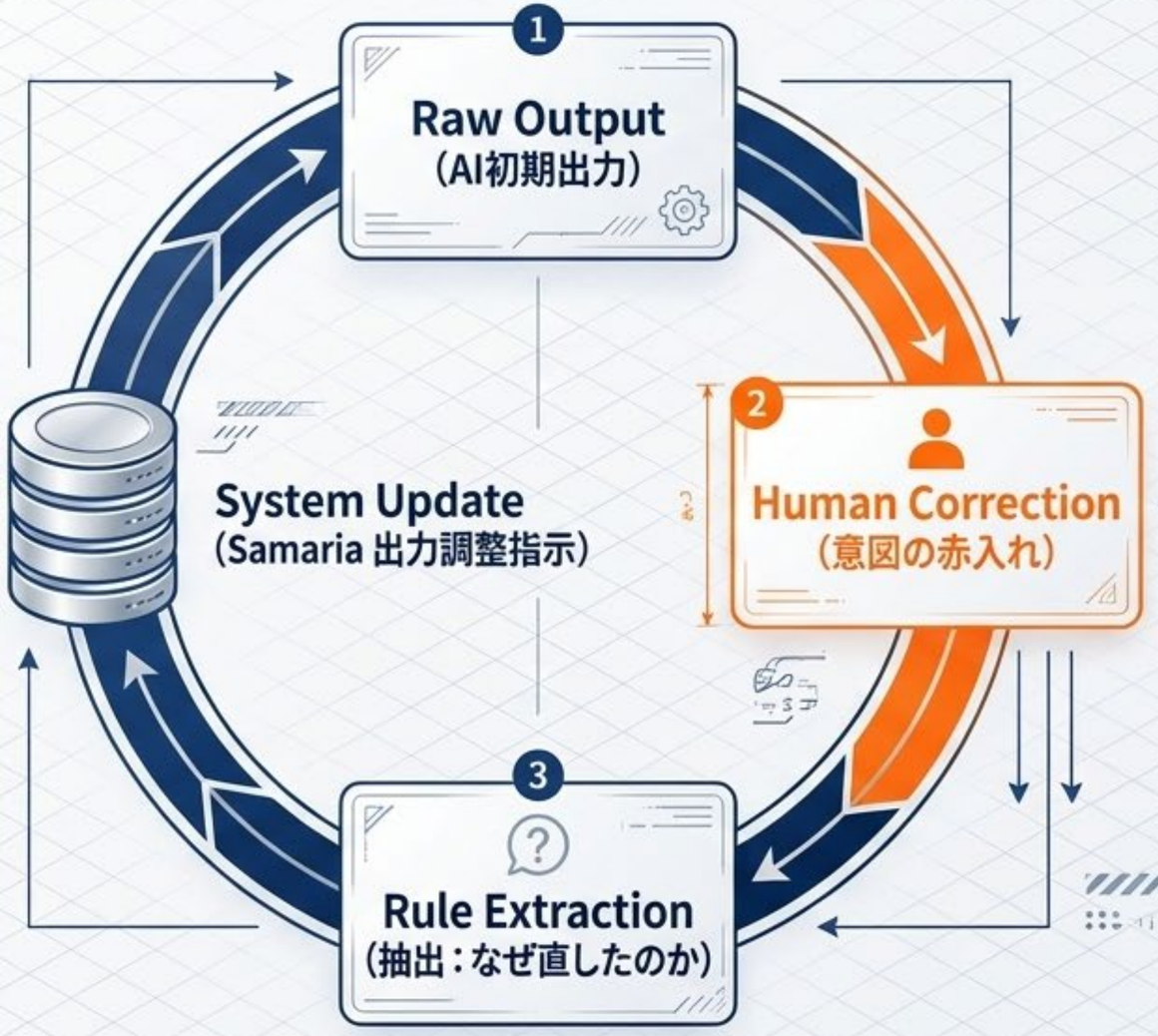

**Warning Orange** ⚠

**次のAIプロセスは、必ずこの「申し送り」を読み込むことから着手させる。**

Gemini Notebook

# 継続的進化：「修正」ではなく「規約化」を行う

単にAIの出力テキストを赤入れして終わらせない。「なぜ直したのか」という論理を抽出し、言語化する。




抽出したルールをSamariaの「出力調整指示」に蓄積。次回以降、自身の意図に近い出力が得られるシステムへと成長させる。

※ Samariaの明細書作成支援機能には、熟練弁理士の高度な記載論理が組み込まれており、AIの出力自体から実務の論理を「学ぶ」ことも可能。

Gemini Notebook

# パラダイムの統合：従来型実務 vs. 次世代の知財アーキテクト

| | 従来型実務 (Traditional) | 次世代の知財アーキテクト |
|---|---|---|
| 業務の起点 | 実行先行型（まずは検索・書き始める） | **設計先行型（要件と到達ラインの事前定義）** |
| イレギュラーな依頼への対応 | 高負荷（手戻りや再構築による多大なストレス） | **柔軟（設計書の上流パラメータを変更するだけで容易に対応）** |
| 報告の価値基準 | 「何が見つかったか」という結果報告 | **「どこまで探し、何が存在しないか」という境界線の証明** |

Gemini Notebook

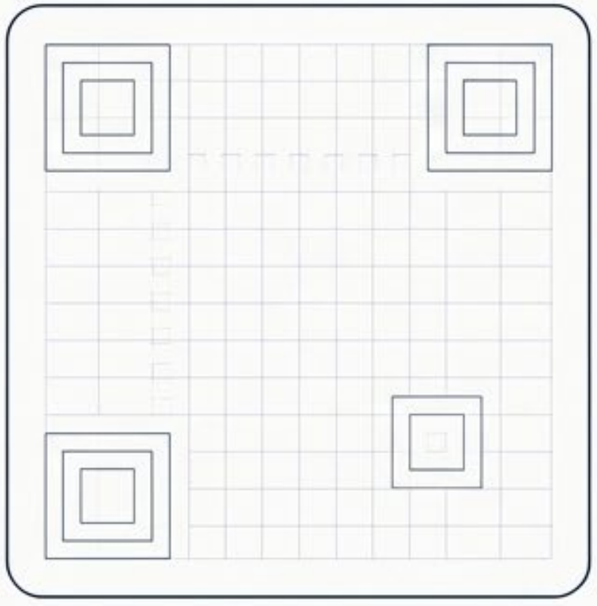
# 究極のクライアント・バリュー：「見つからない」をデータに変える

調査設計段階で「到達ライン」と「探索範囲」を厳密に定義しているため、「この条件ではAもBも見つからなかった（しかしCはあった）」という結果自体が、極めて信頼性の高い戦略的データとなります。

**範囲の境界線を明確にすることで、クライアントと共に迷いなく「次の具体的なアクション」を決定できる。これこそが設計の最大の成果です。**

Gemini Notebook

# エコシステムと今後の展開



本日の資料ダウンロード＆
個別質問（アンケート回答欄へ）

- **10/23 (金) 14:00**
  リコーテクノリサーチ様
  「サマリア使いこなせていますか？スクリーニング実践テクニック」
- **10/29 (木) 14:00**
  レクシード・テックパートナー様
  「生成AI活用の前提となる鑑定設計・外避評価のコツ」
- **11/11 (水) 14:00**
  「Samaria MCP デモンストレーション＆活用解説」(Zoom)
- **11/12 (木) 15:00**
  ドイツより長谷川弁理士登壇「Samaria 知財フォーラム」
- **12/11 (金) 東京**
  ユーザー交流会（ご契約者様限定）

Gemini Notebook